



# キャリアナビだより ミライのとびら

令和3年6月  
キャリアナビゲーター  
中村 彩可

わくわく学習が少しずつ始まっている学年もあると思いますが、わくわく学習では、多くの情報に触れることができます。さて、『学び』にも種類があり、どの学びからも重要な情報を得ることができます。では、『学び』とは何だと考えますか。あなたは、どんな学び方で自分の世界を広げていきますか。

==== 学びの種類 =====

## ★ 体験学習

ごかん み き あじ さわ か  
五感…『見る・聞く・味わう・触る・嗅ぐ』

え じょうほう  
ことで得られる情報



じぶん ちよくめん じょうほう  
自分が直面してわかる情報

き きも  
(気づき・気持ち など)



## ★ 知識学習

しら がくしゅう  
調べ学習

み き よ  
(見る・聞く・読む など)



## ★ 経験学習

つた  
いちばん伝えたいこと

たいけん はじ たいけん  
体験してみても初めてわかることがあります。体験しないとわからないことがあります。

見たり聞いたりしただけでは、あまり興味をもてなかったり、楽しそうだと感じたりしなかったのに、実際に体験すると、興味をもったり、楽しそう！と感じたりすることがあります。もちろん、その反対もあります。実際に体験して思ったこと、感じたことなどは、あなた自身にとってとても貴重な学びとして積み重なっていきます。あなたにしかわからない、あなたらしい学びを大切にしてほしいと思います。

# キャリアナビ通信 6月

発行：矢田小キャリアナビゲーター 中村彩可

「**直接体験**」と「**間接体験**」という言葉があります。「直接体験」は、直接、対象に体で触れたり、かかわったりしていく体験をいい、「間接体験」はテレビや本、インターネットなどを介して体験したり、シミュレーションを介して学んだりすることをいいます。生きた情報を得るには、直接体験が大切です。保護者の皆様にも、こんなご経験があったのではないのでしょうか。

私の直接体験

## — 楽しそう！が、やっぱり楽しかった —



私が初めて一輪車を知ったのは小学校に入学してからでした。何がきっかけだったかは忘れてしまいましたが、1年生の夏休み前に一輪車を買ってもらいました。きっと学校で見かけてか、同級生が持っていたのを見てだと思いますが、楽しそうだな、乗れるようになりたいと思ったことを覚えています。できないことを悔しいと思う性格で、毎日学校から帰ってきて休憩もせず、ひたすら一人で練習をしていた記憶があります。当時は携帯電話を持っているのが珍しいくらいだったため、スマートフォンで動画を見て…という方法もなく、小学1年生なりに考えた練習をしていました。手を離して数メートル進めると、うれしくて母親に報告をしては練習をしての繰り返しで、1か月もしないうちに乗れるようになりました。乗れるようになると、さらに楽しくなり夢中になっていったわけですが、それが私の成功体験になったと同時に、体を動かすことの楽しさを知った体験でもあり、最初に見た「楽しそう！がやっぱり楽しかった」ことを知ったできごとでもありました。そして、この「体を動かすことの楽しさを知った」ことは、後の私に大きな影響を与えることになっていたと、今になって思います。

## — やって見たけど、私はこれじゃないって思った —

私の姉は幼少期にピアノを始めました。姉のレッスンについていくこともあり、その影響でピアノをやりたいと言い始め、「まずはやってみよう」で私もエレクトーンを始めることになりました。しかし、一輪車の練習は楽しかったはずが、エレクトーンの練習は夢中になるほど楽しいと思えず、姉のように難しい曲を弾けるようになるイメージももてなかったことを覚えています。しばらく続けたものの結局やめることになったわけですが、その時には姉と私は違うと自覚していたようで、「やって見たけど、私はこれじゃない」ということにも気づいたできごとでもありました。しかし、それはやってみたから気づけたことであり、少しの間でも通っていたことで楽譜を読めたり、簡単な曲を弾けたりすることは、知識や経験として自分の財産になっていると思っています。（親の本音としては今までの月謝が…と覚えてしまったんだろうと想像してしまいますが、）



## — 傾聴と受容 —

直接体験をふり返ることで、自分は体験したことをどのように感じたか、どんなことに気づくことができたか、ということが分かります。気づきは、自分の進路を決める際の材料（自己分析など）になっていきます。気づきの促しは、一番近くで見ている保護者からのほたらきかけが有効です。**直接体験の後はずせひ、お子様の気づきや気持ちに耳を傾け、受け止めて差し上げてください。**

中央教育審議会では直接体験について以下の様に述べています。

「子どもたちに〔生きる力〕をはぐくむためには、自然や社会の現実に触れる実際の体験が必要であるということである。子どもたちは、具体的な体験や事物との関わりをよりどころとして、感動したり、驚いたりしながら『なぜ、どうして』と考えを深める中で、実際の生活や社会、自然の在り方を学んでいく。そして、そこで得た知識や考え方を基に実生活の様々な課題に取り組むことを通じて、自らを高め、よりよい生活を創り出していくことができるのである。このように、体験は、子どもたちの成長の糧であり、〔生きる力〕をはぐくむ基盤となっているのである。

（21世紀を展望した我が国の教育の在り方について 中央教育審議会 第一次答申）